



城南中だより

学校教育目標
希望と愛をはぐくむ
美と活力の学校

6 月 号 令和 7 年 5 月 30 日 発行 第 3 号

〒339-0034 さいたま市岩槻区笹久保577 <http://jounan-j.saitama-city.ed.jp/>
Tel 048-798-0007 さわやか相談室直通 048-797-0514

「いじめ」を生まないために

校長 吉原 誠 士

多くの小学校の運動会は赤白に分かれて競い、終盤の応援合戦は上級生の“見せ場”になっています。本校は応援団の結成はしませんが、今年度の本校体育祭は各学年2クラスずつなのを活かして「1組連合対2組連合」という縦割り対抗で実施しました。私は教員になってから同じように縦割り「7クラス対抗体育祭」を経験したことがあります。他学年のことも気にしなければならず、生徒だけでなく担任にとっても大きなプレッシャーでした。優勝を目指して助け合い、支え合い、協力し合う「仲間」のはずだとわかっていても、自分の持ち場で負ければ「仲間外れ」にされるのではないかという“恐怖心”をもったのを思い出しました。

しかし、城南中学校の皆は「仲間外れ」を作ってはいけないことを十分に理解し、体育が不得意で悩んでいたりと集団行動に気乗りしなかったりするクラスメートを「仲間」に入れるためによく考えていました。体育委員や学級委員が保健体育科や担任の先生方とも相談して、個々の生徒の特性に応じた工夫を加えて作戦を立てていたのです。生徒一人ひとりが自分のポジションで責任を果たすべく全力を尽くしました。応援も全力、アクシデントには一声かけたり無言で肩を叩いたりしてねぎらうことも忘れませんでした。様々な個性の持ち主が集まる中で「配慮」「気遣い」が欠かせないことを実践する姿に清々しさを感じました。

最初に述べた“恐怖心”は「勝たなければ意味がない」といった極端な「勝利至上主義」が入り込むことから湧きあがります。「仲間外れ」は「負けたのは誰のせいなのだ」という戦犯探しからスタートすると考えられ、これはストレートに「いじめ」です。「勝つことでしか成果が挙げたと認めない」という主張が様々なハラスメント（嫌がらせ）を生む可能性を考慮すると、子どもだけではなく大人たちも注意しなければならないことです。本来、「健全な競争」は互いをより深く知る機会となり、活動を通じて集団の結束力が高まり、敵味方関係なく称え合う中で相手を尊敬する心を芽生えさせられるなど、「いじめ」とは全く無縁だったはずなのです。

私は教職に就いて以来、体育的行事以外の日常場面でも、他者に無関心だったり配慮ができなかったりする状況は「いじめの温床」になると分析していました。城南中でこれから重点的に取り組もうとしている「学級での『話し合い活動』」はこれを判定するよい機会になります。大きな声や陰湿な圧力で同調を求めたり、他人の意見にはお構いなしで一部の者に都合がよい結果に誘導したりするのは“アウト”です。そして、どのような意見であっても安心して発言できる「仲間関係」が成立する人たちの集まりになれば、次の段階としてその「仲間」の中に互いに信頼し合い価値観も共有できる真の「友達」を発見できるようになるのではないのでしょうか。

何年経っても笑顔で再会できる“花笑み学校”でありたいから・・・

「いじめ」を撲滅しましょう！